

京の喫茶・カフェ巡り #3

1948年に開店した「喫茶ソワレ」は、青い光の空間が広がることで知られます。創業者の友人で常連でもあった伯爵で歌人の吉井勇^{いさむ}氏が、珈琲の香りについて詠んだ自筆の歌碑に迎えられ、扉を開ける人々が絶えません。



5色のゼリーと神戸産のサイダーを使った「ゼリーポンチ」と、「ブレンドコーヒー」。トーストは3種類で、2人でシェアできる厚さ。写真はバタートースト(シナモンシュガー付)。

約10年前から3代目店主を務める株式会社元木屋の代表取締役、下山純子さんは「創業者は祖父の元木和夫で、私が幼稚園に通っていた時期のことしか記憶はありませんが、フランスなどの海外のお洒落なおもちゃや小物をプレゼントしてくれました。周りで見えないような珍しいものでしたので、「すごい人だな」と思いました」と振り返ります。その頃に急逝し、周り人たちから、このように価値のあるお店を閉じるのはもったいないと言われたそうで、「サラリーマンだった父が後継しました」と続けます。

かつて創業者は画廊を経営し、芸術家らと知己を得る機会が多く、彼らの声や作品などを活かしながら、「喫茶ソワレ」をオープンしました。「お客様の話す声がBGMだ」と考えたため、音楽は流れていません。

店名のソワレは、フランス語で「夜会」「素敵な夜」を意味します。青色の照明が使われており、これは、元木氏の友人

で染色研究をしていた大学教授の上村六郎氏から「青い光は、女性が美しく見え、男性は若々しく見えるから、店の明かりに使ってはどうか」というアドバイスを受けてのことです。

建物の内外装や調度品の木彫刻もまた友人であった彫刻家で日展作家の池野禎春氏が手掛けました。当時珍しかったフランス留学での経験を活かし、同国

の田舎の教会をイメージしたそうです。

下山さんは、ヨーロッパで豊穡の象徴とされる「葡萄」や、ギリシャ神話のワインの神「バックス」、牧畜の神「パン」などの木彫刻に導いてくれます。向日葵の木彫刻については、背面に回ると、花の後ろ姿まで精巧に彫られていることが分かり、細部にまで凝った手作りの素晴らしさを感じずにはられません。

元木氏は、昭和の洋画家(二科会の会員)の東郷青児氏の作品なども飾っていました。あるとき、親交のあった洋画家(同会員)、佐々木良三氏が東郷氏を連れて来店。以降、同氏は頻繁に通うようになり、喫茶ソワレのために線画(イラスト)を描いてくれました。その線画が、コースターやタンブラー、ゴブレット、

コーヒーカップなどに使われています。1階ではそのオリジナルカップでコーヒーが提供されます(オリジナルコーヒーカップはWEBショップで購入可能)。

コーヒーは濃いめでコクのある味わいをしています。そのコーヒーを使ってゼリーも作られています。

約60年前からキューブ状のゼリーを入れたミルクやワインはメニューにありました。2代目店主を手伝っていた夫人は、幼かった純子さんの牛乳嫌いを直そうと、赤一色だったゼリーを5色に変えました。また5色のゼリーはソーダに映えると思い、生み出したのが「ゼリーポンチ」です。昨年、誕生50周年を迎えました。

ゼリーはアイスクリームとの相性もよく、「ゼリーポンチフロート」「ゼリーコーヒーフロート」もおすすめだそうです。かつて「喫茶店は大人のもの」で、時が流れた今もアルコールが親しまれ、ハイボールも人気があります。

多彩な催事も行われており、この3月には日本橋三越本店で開催されます。座席数は52席で、3月末頃にお客様が好まれるのは2階の東側の席。眼前に咲く高瀬川沿いの桜を楽しめるゆえです。

「この雰囲気を楽しんでいただければ幸いです。時代に合わせて整えていかなければならないものもありますが、この雰囲気を大事にしなければならないと思っています」



誕生50周年を記念して作られたゼリーポンチのバッグチャーム



喫茶ソワレ

京都市下京区西木屋町通四条上る真町95
TEL 075-221-0351

URL <https://www.soiree-kyoto.com/>

営業時間 平 日 13:00~19:00 (ラストオーダー18:00)
土日祝 13:00~19:30 (ラストオーダー18:30)

定休日 月曜日
※年末年始(12月29日~翌年の1月3日まで)
※メンテナンス工事のため1月19日~26日まで休業

阪急「京都河原町」駅1A番出口から約30m
京阪「祇園四条」駅4番または5番出口から約200m

